

社会資本総合整備計画          社会資本整備総合交付金

令和03年12月24日

計画の名称	村岡新駅周辺地区													
計画の期間	令和04年度～令和08年度（5年間）											重点配分対象の該当	○	
交付対象	藤沢市													
計画の目標	<div>・JR東海道本線への新駅設置を契機とした機能誘導・集積による都市拠点を形成するとともに「かながわ都市マスタープラン」に位置付けられた村岡・深沢地区における都市圏域の自立を支える新たな地域の拠点整備</div> <div>・鉄道新駅を核とするITを活用したの目的に沿った移動がストレスなく行える環境の創出や、快適で安全な歩行空間の形成等による自家用車に依拠しない人中心のまちづくり</div> <div>・歴史的資源や緑の活用と、官民連携による新たな緑の創出・運営による街の魅力の向上</div> <div>・街路、公園などの既存ストックを活用するとともに地域に開かれた駅前空間を形成し、魅力的な交流、居心地の良い時間、新しい体験が得られる「過ごしたい場」づくりを行う</div>													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		3,010	A	3,010	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R3		R8
1	地域交流センター貸館の利用者数の増加			
	魅力的な交流、居心地よい時間、新しい体験が得られる「過ごしたい場」を目指し、地域に活気と賑わいを創るための地域交流活動が行われる貸館の利用者数の向上を図る 地域交流センター貸館の利用者数	157000人/年	人/年	188000人/年
2	村岡地区住民の都市基盤整備に対する満足度			
	道路、公園、下水道、防災施設、交通安全施設等の整備により、便利で魅力的な生活環境の創出を図る 移動や利用にあたり、だれでも利用できる道路や施設に関する市民意識調査	37%	%	45%
3	十二天公園利用者数の増加			
	公園の再整備により、ニーズに即した機能が配置されることで、利用者数の増加が見込まれる 公園利用者数	80人/日	人/日	100人/日

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	藤沢市	直接	藤沢市	-	-	まちなかウォークアブル推進事業	道路、高質空間形成施設（19.5ha）	藤沢市 / 村岡新駅周辺地区						1,310		-
											小計						1,310		
道路事業	A01-002	街路	一般	藤沢市	間接	都市再生機構	区画	改築	(都)藤沢村岡線	道路築造 L = 372m 交通広場 A = 5,900㎡	藤沢市						1,280	2.21	-
	A01-003	街路	一般	藤沢市	間接	都市再生機構	区画	改築	(都)村岡新駅南口通り線	道路築造 L = 25m 交通広場 A = 5,200㎡	藤沢市						420	2.21	-
											小計						1,700		
											合計						3,010		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R04	R05	R06		
配分額 (a)	24	55	106		
計画別流用増 減額 (b)	0	0	0		
交付額 (c=a+b)	24	55	106		
前年度からの繰越額 (d)	0	16	31		
支払済額 (e)	8	40	73		
翌年度繰越額 (f)	16	31	64		
うち未契約繰越額(g)	0	0	64		
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0		
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0	46.71		
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由			事業計画の再検討		

# 事前評価チェックシート

計画の名称： 村岡新駅周辺地区

事前評価		チェック欄
Ⅰ．目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 １）まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。		○
Ⅰ．目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 ２）上位計画等と整合性が確保されている。		○
Ⅰ．目標の妥当性 地域の課題への対応 １）地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。		○
Ⅰ．目標の妥当性 地域の課題への対応 ２）まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 １）目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 ２）指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 ３）目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 ４）指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 ５）地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 事業の効果 １）十分な事業効果が確認されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性 事業の効果 ２）事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている		○
Ⅲ．計画の実現可能性 地元の熱意 １）まちづくりに向けた機運がある。		○
Ⅲ．計画の実現可能性 地元の熱意 ２）住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。		○
Ⅲ．計画の実現可能性 地元の熱意 ３）継続的なまちづくりの展開が見込まれる。		○
Ⅲ．計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 １）計画の具体性など、事業の熟度が高い		○

[illegible]